
メダバトル第二部

前田洋祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メダバトル第二部

【Nコード】

N5747A

【作者名】

前田洋祐

【あらすじ】

嫌々入部させられたリュウは、メダバトル部の部員に振り回される、学園バトルコメディー！

第一話：練習試合は俺とお前??

ピョピョピョピョ

朝だ・・・。

散らかった部屋に、一人の男が寝ている。その男の名は、リユウ

色々あって、軽く強制的に変な部活に入部させられた

ジリリリリリ!!

ジリリリリリ!!

ジリリリリリ!!

目覚まし時計が鳴る。

ジリリリリリ!!

ジリリリリリ!!

リユウ

「あー！ー！うるさい！まだ5時だろ！！」

目覚ましを止め布団に入る

リユウ

「ん？5時？5時！あー！ー！やっべー！！」

リユウがこんなに朝早くに起きる理由は、メダバトル部の朝練があるからだ。

遅刻をすると、自殺に追い込まれるほどの、暴言が、待っている・・・。

その頃部室は……。

ゴン

「よし！そろそろ始めるぞ。」

サスケ

「あーれ？リュウちゃんは？」

ユキ

「まだ来てないみたいですね」

カイ

「遅刻か……」

リン

「あんな奴！死ねばいいわ！10日連続遅刻よ！」

部員がストレッチをしている後ろで、シュウは掃除をしている。

シュウ

「あのおー僕は、まだ練習に参加できないんですか？」

リン

「何してるの？次は窓拭きよ。」

シュウ

「はい・・・。」

コーチ

「おーい！みんな集まったかあ？」

カイ

「馬鹿がまだ・・・。」

コーチ

「またかあ？まあいい、お前らで先に始めなさい」

それぞれがトレーニングを始めた。一人は窓拭きだが

ガラガラガラガラ

部員の扉が開いた。

リュウ

「おはよーございまあーす！さあ！今日も元気にトレーニングだあ
！」

部員一同

「ごまかすな」

リン

「アンタは何？バカ？何日連続遅刻よ！死んだほうが、いいわね！」

リュウ

「ひど・・・。」

サスケ

「お子さまだなあ」

カイ

「死ね……」

ユキ

「したないわ、リュウ君だから。」

ゴン

「やる気が無い証拠だな……」

リュウ

「てめーら……ふざけんな！てか何で俺が部活に入ってるの！？強制じゃん！？」

コーチ

「もういいから、トレーニング始めなさい」

ゴン

「コーチはリュウに甘すぎる」

リン

「わたしも、そう思うわ」

サスケ

「ゆとりの教育だね」

リュウ

「どこが、ゆとりだ！？ゆとりがあるなら、辞めさせろ！」

カイ

「練習だ……」

リュウを無視して部員はトレーニングを始めた。

リュウ

「また、このパターンかよ！あれ？」

リュウ

「お前また窓拭きか？そんなに掃除が好きか」

シュウ

「好きでやってないですよ！僕だって練習したいですよ」

リュウ

「その様子じゃあ、一生無理だなあ！」

リュウはシュウに八つ当たりをしている。

ゴン……！！

リュウ

「いってえー！！」

コーチ

「トレーニングしろー！！」

リュウ

「はいよ………」

朝練終了……。

教室。

リュウ

「アー辞めたい」

シュウ

「リュウさんはトレーニング参加できてるから羨ましいですよ。」

リュウ

「そーいえば！！お前のせいで入部させられたんじゃない！！」

シュウ

「楽しそうにしてるじゃないですか」

リュウ

「あーもう！調子狂うわぁ！」

キンコンカンコン

担任

「はーい！授業だぞお！起立！着水！て水かい！！」

リュウ

「寝るか・・・」

教室の扉が急に開いた。

リン

「リュウ！！大変だよ！！」

シュウ

「寝てますけど」

リン

「起きろ！ばけ！」

リュウ

「あーもう！またかよ！」

リン

「隣の学校から練習試合がしたって電話が来たのよ」

リュウ

「んな事、あとで言えよ。」

リン

「今からトレーニングよ！」

リュウ

「は？授業は？」

リン

「特別に免除よ」

リュウ

「授業なし？やった！」

シュウ

「僕は行かなくていいですね」

リン

「何言ってるの？あなたも試合するのよ、てゆーか練習試合は、あなた達二人よ！」

リュウ・シュウ

「えーーーーー！！？」

つづく

番外・リュウ編：過去の罪（前書き）

リュウの知られざる中学時代の悲しい話

番外・リュウ編：過去の罪

教室でリュウとシュウは話しをしていた。

シュウ

「リュウさんは中学時代どんな人だったんですか？」

リュウ

「俺か？俺は狂龍のリュウって言われてたなあ。」

リュウ中学一年。

番長

「てめー何もんだ！！」

一人の男が10数人の男を倒し、ボコボコにしていた。

リュウ

「あ？リュウだけど？」

番長

「なぜ？俺たちを？！」

リュウ

「暇つぶし。」

番長

「貴様！ふざけるな！」

番長はリュウに殴りかかった。

リュウ

「雑魚が・・・死ね」

リュウは番長の顔面に膝蹴りを食らわした。

番長

「アガ・！」

リュウ

「弱すぎるんだよなあ？暇つぶしに、ならなかったわ。」

リュウ

「別に番長になりたくないからな！お前らで勝手にやれば？」

この頃のリュウには喧嘩は暇潰しだった・・・。

女

「リュウ君どこに行ってたの？」

リュウ

「あ？喧嘩だよ？サキには関係ないだろ」

サキ

「でも……………」

リュウ

「暇つぶしにもならないけどな」

サキ

「気を付けてね……」

リュウ

「だから関係ないだろ！！」

リュウは家に入り部屋で寝た。

次の日……………。

母

「リュウ、あんた昨日サキちゃんに会わなかった？？」

リュウ

「しらねーよ」

母

「そう？昨日からサキ家に帰っていないみたいなのよ。」

トウルルルルル

トウルルルルル

電話がなつた。

いやな予感がした、
ガチャ

リュウ

「もしもし」

???

「リュウか」

リュウ

「だれだよ」

???

「お前の家の裏の空き地に誰か死んでたぞ？ギャハハハハハハ！」

リュウ

「おい！なんだよ！」

電話が切れた

空き地にリュウは行ってみた。

そこには変わり果てたサキの姿があった。
リュウは亡骸を抱き寄せた。

リュウ

「おい！どおーしたんだよ！！起きろよ！朝だぞ！おい！起きろつて！」

もちろん返事はなかった。

リュウはこの日から喧嘩をしなくなった……。

シュウ

「ねえ！聞いてます？中学時代どんな人だったの？」

リュウ

「ん？モテモテだったよ……、落とし物もしたけどな。へへ」

シュウ

「落とし物？なんですか？」

リュウ

「さあな？」

シュウ

「教えてくださいー！」

（心配すんなよ、喧嘩はしてないからよ、お前の為じゃないからな・
・・・。）

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5747a/>

メダバトル第二部

2010年12月2日15時55分発行